



学校だより第4号

令和8年6月30日

新宿区立戸塚第三小学校



ながれ

今年度は開校101年目です

善悪の判断・社会人基礎力の土台

校長

人と人との関わりを見つめ直し、自分のことも相手のことも同じように「たいせつ」にできる戸三小に、と取り組んだ6月の「ふれあい月間」に令和6年度に実施した学校保健委員会で学んだことを改めて振り返りました。当日、ご参会いただいた保護者の方には既にご存じのことで重ねてのお話になりますが、大切な内容でしたので再度ご案内させていただきます。

話の聴き方、受容・傾聴することの大切さ等、ご家庭でも取り入れていただける「ほんの少しの心がけ」や、学校内でも普段から取り組んでいるコミュニケーションの基礎・基本を、グループワークやペアコミュニケーションの演習、ロールプレイ等で感じ取りながら講師の先生にご指導・ご助言をいただいて楽しく学んだ講座でした。講義の前半で、大人から子供へのかかわり方についてお話がありました。善悪の判断のもととなる「やってよいこと、よくないこと（悪いこと）の区別を理解させること」つまり「善悪の判断」の土台は、2～3歳までに、躰（しつけ）として、家庭でしっかりと確立させることが重要とのことでした。学校に入学し、学校という「小さな社会」で多くの人と一緒に学習し、生活するための基本的なきまり・ルールについて、そして、それは「守るものである」ということは、2～3歳で家庭内で獲得し、その後さまざまな機会を通じ積み重ねてきた経験と学びを元に一人一人が備えたもの、ということです。生命に関わること、自分と同じように相手のことも大切にすること、自分がされてうれしくないことは人にしないこと…等々、「なぜよいのか、よくないのか（悪いのか）」をその理由も含め、幼いうちにきちんと諭し身に付けさせることが、社会生活の基盤となるとのことです。大人の前でだけきちんとするのではなく、叱られないようにふるまうのではなく、どんな時も自分が正しくありたいと考えられる、そのように行動できる人になれるよう、小さな頃からの「心育て」が肝心です。

何かをしてしまいそうになる時に、踏みとどまれる、一線を越えないために、幼い頃に真剣に叱り、心を育ててくれた「あの人」のあの表情・あの声・あの言葉が心に浮かび、そうだ、これはしてはいけないことだ、もしやったら「あの人」を悲しませてしまうことになる…してはいけないことだな、やめよう…と自分を制する力につながると考えます。

1・2年遠足

2年担任

5月21日に予定していた低学年の遠足は、雨天のため、6月4日に延期しました。

ところが、「さあ、明日は遠足だ。」と思っていたところに台風の接近。残念ながら遠足は中止になってしまいました。

しかし、子供たちは諦めません。翌日3校時に、「遠足ごっこ」のスタートです。まずは、校庭で全員遊びです。2年生が計画していた「グリコ」、「だるまさんの1日」、「氷おに」などで校庭を走り回ります。はあはあと息を切らし、汗びっしょりです。

そして、楽しみにしていた「お弁当タイム」です。体育館に敷き物を敷き、1・2年生合同のグループで仲良く話をしながら、お弁当をおいしくいただきました。

実際に平和の森公園に行くことはできませんでしたが、遠足気分を十分に味わった低学年の子供たちでした。

4年 神田川ファンクラブ

4年担任

みどり公園課の方々のご協力のもと、「神田川ファンクラブ」の活動に取り組んでいます。

第1回では、神田川の水質調査を行いました。pHや透過度を測定し、神田川の水は飲み水に適さないものの、比較的きれいな水であることを学びました。測定結果を記録しながら神田川の環境について理解を深めました。

第2回では、実際に神田川に入り、生き物調査を行いました。ヌマエビやスジエビを数多く見つけたほか、きれいな川に生息するとされるドンコも観察することができました。夢中になって生き物を探し、神田川にはきれいな水が流れていることを実感していました。

今後も神田川に関する学習を通して、地域の自然や環境への関心を高めていきます。